

【学校教育目標】

心豊かに 自ら考え行動できる児童の育成

【めざす児童像】 自ら考え行動できる子 仲よく助け合う子 体をきたえ元気な子
～かしこく（知）・やさしく（徳）・元気よく（体）～

【現状】

運動やスポーツに興味・関心があり、体育の学習に進んで参加する児童が多い。授業でできなかったことができるようになったとき、多くの児童が体育の授業を楽しんでいる。行間休みには、多くの児童が外で遊んでいる。体力づくりのイベントに積極的に参加する児童は低学年が多く、高学年になると人数が減り、活動に参加する児童が固定化されている。

【課題】

「新体力テストの数値分析の結果」より、男女とも50m走、立ち幅跳びの数値が県平均を下回っている。クラス数が多いため週1回しか体育館での体育ができない。運動をしている児童とそうでない児童とで二極化している。

【取組み】



体育の授業の充実

運動の機会を増やすために、授業での運動量を確保する。そのために、体育で使用する環境・場を体育部で準備し、十分な運動ができる時間を保障した年間計画を実施している。単元や1回の授業の中での目標をもって活動に取り組み、振り返りをする事で、達成感を味わえるような授業にする。



運動意欲の向上

ボールが苦手な児童も安心して外遊びに取り組めるように、ドッジビーを全クラスに常備したり、低学年には、ソフトスポンジボールを配布したりする。また、跳び箱やマット運動等では場の工夫を行い、個人の技能にあった練習ができる環境を整えることで授業での苦手意識を減らせるようにしたい。



体力づくりの工夫

体育委員会主催で、遊具を活用した体力づくり「みなみっ子SASUKE」と「なわとびチャレンジ」を秋から冬にかけて行う。また、体づくりのイベントに高学年児童の参加を促すために、ペア学年での参加を呼びかける。みなみっ子SASUKEの実施種目を増やすことで運動に対する多様な感覚を身に付けさせたい。また、課題である児童の瞬発力を伸ばすためにもイベントを通して、なわとびを推進していく。

【目標】

- 体育の授業の運動量を増やし、体育が好きで運動に積極的に取り組む児童を育成する。
- ルールや場を工夫し、苦手な種目でも楽しみながら運動に参加する児童を育成する。
- 授業の充実やなわとびの推進を通して、新体力テストの合計記録のさらなるレベルアップを目指す。